

令和元年度に実施した整備事業

一史跡和田岡古墳群 吉岡大塚古墳一

- 1 位置 掛川市高田
- 2 工事期間 令和元年7月～令和2年3月
(整備工事開始 平成29年8月～)
- 3 内容

古墳時代中期(約1,600年～1,500年前)に造られた和田岡古墳群は、原野谷川が形成した段丘に点在しています。4基の前方後円墳と1基の円墳に埋葬された人々は、原野谷川中流域を治めた有力者達と推定されます。貴重な古墳群として、平成28年3月に国の史跡に指定されました。

吉岡大塚古墳は平成19年度から平成26年度まで史跡整備に向けた発掘調査を行い、全長54.6m、後円部直径41.3m、高さ7mで、墳丘には葺石が施され、円筒埴輪、朝顔形埴輪、壺形埴輪が並べられていたことがわかりました。この結果に基づき、29年度から整備工事に着手しています。

令和元年度は、墳丘の復元と周囲の園路舗装や植栽を行いました。墳丘の葺石復元には地元小学校の5、6年生が参加しました。埴輪の設置を除けば、墳丘の復元はほぼ完了しました。



平成29年度 工事着手前の様子



葺石復元体験の様子



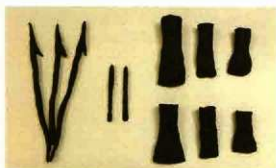
令和元年度 工事完成 西から

令和元年度に実施した保存処理遺物

一浅間神社古墳群 3号墳出土鉄製品一

- 1 出土地点 掛川市高御所・長谷
- 2 調査期間 平成8年
- 3 内容

浅間神社古墳群 3号墳は古墳時代中期に造られた円墳で、径は東西37.5m、南北41.5mあり、古墳の頂上と裾から埴輪が見つっています。埋葬施設から見つかった鉄製品の内、ヤス1点、ノミ2点、鉄斧6点の保存処理を行いました。



鉄製品 左からヤス、ノミ2点、鉄斧6点

発行：掛川市文化・スポーツ振興課文化財係 電話(0537)21-1158

第16回

出土文化財展

日時：令和2年9月24日(木)～10月4日(日)

場所：掛川市立大東図書館 1階生涯学習ホール

令和元年度に実施した本発掘調査事業

一吉岡下ノ段遺跡(第17次)一

- 1 位置 掛川市吉岡
- 2 調査期間 令和元年7月～12月
- 3 内容

吉岡下ノ段遺跡は、縄文時代中期(約5,000年前)から戦国時代(約500年前)の遺跡です。過去の調査では、弥生時代後期(約1,800年前)から古墳時代前期(約1,700年前)の建物跡などの遺構、土器や石器などの遺物が多く発見されています。

第17次発掘調査は、お茶の植え替えが計画されたことを受けて実施しました。

調査では、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡4棟が見つかりました。掘立柱建物は、倉庫として使われていたと考えられています。

出土した遺物から、どちらも古墳時代前期に建てられたことがわかりました。



破線…竪穴住居跡 8軒
実線…掘立柱建物跡 4棟



土器出土状態

土器の種類は、壺、甕、高坏などで、壺は食べ物の保管に、甕は調理に、高坏は食器として使われた土器と考えられています。

また、平安時代(約1,100年前)の土器も数点見つっています。

— 瀬戸山Ⅰ遺跡（7次）—

- 1 位置 掛川市高田
2 調査期間 令和元年5月～12月
3 内容

瀬戸山Ⅰ遺跡は、縄文時代早期（約1万年前）から古墳時代前期（約1,700年前）の遺跡です。過去の調査では、弥生時代後期（約1,800年前）から古墳時代前期（約1,700年前）までの建物跡や土器などが多く発見されており、当時、集落があったことがわかっています。

第7次発掘調査は、畑の造成が計画されたことを受けて実施しました。

調査では竪穴住居跡が約60軒、掘立柱建物跡が9棟発見されました。



調査区東半部遺構の検出状況

白線…竪穴住居跡、緑線…掘立柱建物跡
赤円…土坑墓、黄円…土坑墓（中世）
青円…貯蔵穴



石敷き遺構のある竪穴住居跡（縄文時代）

竪穴住居跡の最も古いものは縄文時代後期（約4,000年前）のもので、住居内からは石敷き遺構が見つかりました。石が焼けているため、炉跡と考えられます。

住居跡の多くは、弥生時代後期から古墳時代前期のものでした。時代は違いますが、何回も住居が建てられていることから、当時から住みよい場所だったことが想像されます。



竪穴住居跡（弥生時代後期）



掘立柱建物跡

9棟の掘立柱建物跡の内、柱間が3間×1間の建物が2棟、2間×1間の建物が7棟でした。いずれも弥生時代後期から古墳時代前期の建物跡と考えられます。

その他に土坑墓、貯蔵穴、土器捨て場などの遺構が見つかっています。

土坑墓とは、穴を掘って埋葬しただけの、簡素なお墓のことです。今回の調査では2種類の土坑墓が発見されました。一つは、直径0.8～1mの円形で、約20基発見されました。そのうち5基では底の土が焼けていました。出土した遺物から中世（約500年前）のお墓と考えられます。もう一つは1.5×0.6m程の長方形で、2基発見されました。この土坑墓の時代は不明です。

貯蔵穴は、直径約0.8mの円形で、残っていた穴の深さは約0.7m、深くなるほど直径が大きくなるフラスコのような形をしていました。中からは縄文時代後期の土器の他、魚を捕る網に付けた石の重りも見つかりました。

土器捨て場からは弥生時代後期の土器の破片がたくさん出土しました。

遺物は、縄文時代、弥生時代後期、古墳時代前期の土器の他、石器、鉄製品、ガラス玉などが見つかりました。その内、貴重な発見となったのは縄文時代早期（約10,000年前）の土器です。今までに市内で発見されている最も古い土器と同じ時代です。



土坑墓（中世）



貯蔵穴（縄文時代）



土器捨て場の様子



発掘調査風景